



No.33 (通No.112) 2023年11月8日

てつがく なかにわ

LEE'S レター 哲樂の中庭 2023年立冬

季節のごあいさつに代えてリーズからおとどけするただ一つの通信

「フェルデンクライス」

「フェルデンクライス? なんですか、それ」。2007年のあるセミナーで受講者から初めて聞いた「フェルデンクライス」。この名の物理学者が体系化した、「身体の動きを通じて脳を活性化し、より自然で質の高い動きと機能を身につけるための学習法」とネットに紹介されています。スポーツ、演劇・ダンサー、その他様々な分野で応用されているそう。

個人的に長年の実践者を二人知っています。みていると、茶道や柔道のような「道」の世界の印象。そして、心身を<ととのえる>のによく効き、「心理」を勉強する人には学びを深めるアプローチになるのでは? さてどうでしょう。

拠点ゼミ Vol.2 開催

「女性チャレンジ応援拠点」の『拠点ゼミ』第二回は「リーダーシップ」。リーダーシップはコミュニケーションスキルの一つですが、アイデンティティの表れでもありますね。

●日時: 11月25日(土) 14:00

●場所: [クレオ大阪中央館](#)

LEE'S (リーズ)

〒541-0046

大阪市中央区平野町1-7-1

堺筋高橋ビル5F Tel. 06-7164-0937

大阪NPOセンターRS B507

リー・ヤマネ・清実

Lee Yamane Kiyomi



「もっとクリエイティブなことができる」?

下に紹介した『世界の歴史大年表』の最終ページは「ロボット工学の物語」。その2つ前が「インターネット」。そのまた2つ前が「コンピュータ」です。

この「コンピュータ」の中に「人工知能」の簡単な説明があります。1950年頃にイギリスの科学者が人工知能の可能性を考えていて、その彼が1930年半ばに今のコンピュータにつながる機械を構想したそう。

今年はAI実用元年といえますが、「bing」を使ってみると、“そこそこやるなあ…”という時もあるれば、あるテーマでは、「もうこれ以上は…」と根をあげたような返事をしてきます。

9月だったか、日経にAI研究者へのインタビュー記事が載っていて、今の構造のままなら、生成AIはそれほど賢くならないと話していました。だからでしょうか、NHKのニュースサイトの特集記事に、『SFの世界がやってくる?“神

のようなAI”が生まれる日』。ロスアンゼルス支局からの報告です。

冒頭、「進化したAIといえば、何を思い浮かべるでしょうか。ドラえもんや鉄腕アトムといった未来のロボットのイメージでしょうか。アメリカでは今、こうした自ら考え、行動する究極のAIである「AGI=汎用人工知能」の開発が現実味を帯びてきたと関心を集めています。ロボットにこのAGIが搭載されれば、なじみのある漫画やSFの世界が本当にやってくるかもしれません」。

ロボットの原型が作られたのはアメリカで1939年だとか。「AGI」は10年後には現実化すると観測あり。なにごとも100年ほどすると、大きな節目、転換点をむかえるものです。

記事の中でAI起業家が、「人間はもっとクリエイティブなことをできるようになる」とコメントしていました。スマホの時も同じことが言われましたが、それは人間しだい。個人的に今のところAIも、付かず離れずの距離感。

| 見聞感考 | 個人が歴史に学ぶシンプルな答

歴史の専門家の間では、年表をそらんじて書けるようになるは<プロ>と言うそうです。

時流を読むのに、年表をたどるのは一つの方法です。5年前の2018年ふと思立って、1945年から100年前をたどり時流図を作ったことがあります。1845年からずっとみていくと、しだいに、“ちょっと待てよ、こういうことが起こることとは…”、さらに100年を遡ることになり、1745年からを見ると、「シンギュラリティ」といわれる2045年の出発点が“なるほど「産業革命」か…”となったのでした。

年表も<アマ>はここどまり、300年でとりあえず、わかった気になりました。でももっと長いスパンで見た気はしていましたが、今年8月、『世界の歴史大年表』という図鑑が「訳あり」で

半額になっているのを見つけ、“これは買い!”。ヨコ26cm タテ30cm けっこうな重さの一冊。

構成は先史時代から古代、中世、大航海時代、革命の時代、そして1914年以降の現代。最後の最後のページには、135億年前から西暦2017年までの年表が縦横式で掲載されています。

買って帰った時にざっと見て置いていたのですが、今回のハマスとイスラエルの衝突のニュースに、手が伸びました。この地の歴史が、大国も絡んでの複雑さが、見開き2ページで概説されています。今また続く対立、戦い、たぶんこれから先も長く続く。自分も含め、人間とは…という気になります。

一個人が歴史に学ぶ身近な生活での答は、対立は生まれる、でも、それを高じさせないこと。「寛容」、「協調」、時には「疎遠」も良策ですね。